

土佐市立北原小学校

複式（算数）授業づくり講座

発行  
令和 2 年 12 月 18 日  
中部教育事務所



単元計画  
2 年生「さんかくけいやしかくけいの形をしらべよう」（全 9 時間）  
3 年生「三角形を調べよう」（全 9 時間）

| 2 年生                                                            |                               | 3 年生                                                            |
|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 指導のねらい                                                          | 見方・考え方                        | 指導のねらい                                                          |
| ①辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して、三角形、四角形の意味や性質を理解する。                   | 辺や頂点の数に着目し、三角形と四角形の構成の仕方を考える。 | ①既習を活かして、円の中に三角形を描くことができる。                                      |
| ②図形を弁別する活動などを通して、三角形、四角形についての理解を確実にする。<br><b>（本時）</b>           |                               | ②三角形を弁別することを通して、二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解する。 <b>（本時）</b>          |
| ③直角の意味を知り、身の回りから直角を見つけることができる。                                  | 角に着目し、その「角」が直角かどうかを考える。       | ③なぜ二等辺三角形と正三角形ができたのか、円の性質を用いて説明することができる。                        |
| ④四角形を構成要素に着目して見ることを通して、長方形や正方形の意味や性質を理解する。                      | 直角や辺の長さに着目し、図形の意味や性質を考える。     | ④角の意味や角の大きさの相等や大小を理解し、調べることができる。                                |
| ⑤長方形、正方形を対角線で分割してできた直角三角形の意味や性質を理解する。                           |                               | ⑤二等辺三角形や正三角形の角の特徴を理解する。                                         |
| ⑥方眼の仕組みや図形の性質に着目して長方形、正方形、直角三角形の作図ができる。                         | 図形の構成要素に着目し、作図の仕方を考える。        | ⑥二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を理解し、作図することができる。                              |
| ⑦前時にかいた図形が、本当に「                    」といえるのか、だれもが納得する説明をすることができる。 |                               | ⑦前時にかいた図形が、本当に「                    」といえるのか、だれもが納得する説明をすることができる。 |
| ⑧正方形、長方形、直角三角形を数き詰めてできる模様的美しさに気づくことができる。                        | 図形の構成要素に着目し、数き詰め模様の作り方を考える。   | ⑧三角形や円を使った模様的美しさに関心をもつことができる。                                   |
| ⑨評価テスト                                                          |                               | ⑨評価テスト                                                          |

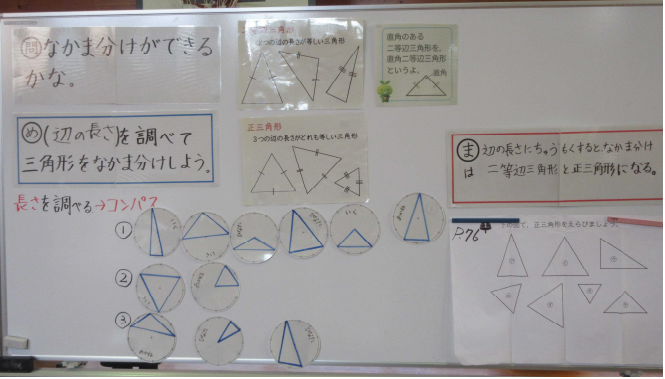
本時の展開

| 2 年生                                             |                                 | 3 年生                                       |
|--------------------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------------|
| 1. 3 年生と一緒に前時の復習をする<br>（同時指導）                    | 仲間分けができるかな                      | 1. 2 年生と一緒に既習を振り返る<br>（同時指導）               |
| 2. 一人学びをする<br>仲間分けをするだけでなく、理由も明らかにする。            |                                 | 2. 一人学びをする<br>ものさしやコンパスを活用して辺の長さを比較する。     |
| 3. とも学びをする<br>辺や頂点の数に着目して、三角形や四角形の弁別の仕方を考え、説明する。 |                                 | 3. とも学びをする<br>辺の長さに着目して、三角形の弁別の仕方を考え、説明する。 |
| 4. まとめをする                                        | 辺や頂点の数を確かめると、三角形や四角形を見つけることができる | 4. まとめをする<br>辺の長さに目をつけると、三角形も仲間分けすることができる  |
| 互いのまとめを交流することで、問題解決の過程を振り返り、共通点を見いだす。（同時指導）      |                                 |                                            |

本時の授業では、2 年生の子ども達は、「辺が 4 本あるから四角形だ！」「かどが丸まっているから三角形とは言えないよ！」などのように、辺や頂点に着目して三角形と四角形の仲間分けをすることができていた。3 年生は、「本当に 3 辺の長さが全て等しいのか、2 辺の長さは等しいのか」ということを全体で確かめ合う活動は十分ではなかったが、辺の長さに着目して仲間分けをすることはできていた。

どちらの学年でも「図形の構成要素に着目して、三角形や四角形の構成の仕方を考える」という見方・考え方を働かせて本時のねらいを達成しようとする姿が見られ、共通する見方・考え方で教材を捉え直した提案性のある授業であった。

3 年 最終板書



本時の学習内容が45分で終了しないと、見方・考え方でつないだ異学年同士の学びにずれが生まれてしまうので、45 分の中で本時のゴールまでたどり着くことを複式学級では大切にしなければならないと考えています。

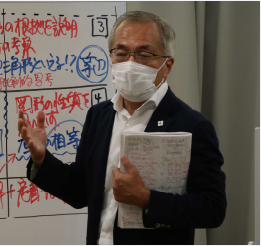
学級の実態に合わせて作成した単元計画をもとに、板書や子ども達のつぶやきを大事にしながら、明日からの授業も頑張っていきたいと思います。

2 年 最終板書

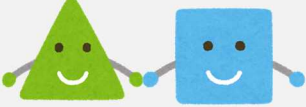


授業者 藤本 亜紀教諭

複式学級の授業づくりのポイント



高知県学力向上総括専門官  
齊藤一弥先生



～異学年の単元を組み合わせるよさとは？～

- ①それぞれの学年の学びに連続性と関連性がある
- ②学びの過程を強化し、意味的理解を深めることができる

「何ができるようになるか」「そのためにどのような教材を用いるか」という能力ベースの授業を実現するために、2つの学年が 1 つの教室で共に学ぶという強みを生かし、“学びの見通し”（下学年）と、“学び直し”（上学年）が実現するような単元を描くことを大事にしてほしい。

目指すべきねらいを共通課題とした単元計画

2 学年共通の単元計画代案

- ①構成要素に着目した図形の構成
- ②構成要素に着目した図形の弁別
- ③図形の作図
- ④作図した図形の構成の仕方について考察
- ⑤身の回りのものを図形と捉える(2年)
- ⑥図形の性質を見いだす(3年)
- ⑥概念の理解と定着

北原小学校は、図形領域において働かせたい見方・考え方をしっかりおさえたうえで単元計画を作成しており、そこに大きな学びがあった。また、複式の授業で、両学年に共通する見方・考え方に視点をあてて本時を組み合わせていたことも素晴らしかった。

インプットしたことを自分の言葉でアウトプットすることで、学びは自分のものになる。暗記再生型（インプット）ではなく、一人ひとりの思考力・表現力を高める（アウトプット）授業を目指してほしい。

中部管内には、複式学級を有する学校が47%もある。複式学級の担任が 1 人で悩みを抱え込んでいないだろうか。今日のように、先生方が集まって交流し合うことに意味があるので、互いに授業を見合うなどして、明日から取り組むべきことを見いだしてほしい。

参観者の振り返りより

- ・異学年で共有することが両学年ともに意欲につながるし、見方・考え方を働かせることで学びも深まることが分かったので、取り入れていきたい。
- ・1 時間の中で互いの学びを共有するよさを感じたので、数学的な見方・考え方を意識し、ねらいを明確にした授業展開を行っていきたい。
- ・複式だからこそでできる共通点を考えた授業づくり(単元構成)のよさを感じた。
- ・複式を強みとして考えられるようになったので、授業の中で、互いの学習内容に共通事項を見つけ、学年間の交流の時間をとるようにしている。



中部教育事務所  
学校経営AD  
山中恵理子

複式学級の子どもの豊かな学びを期待しています！